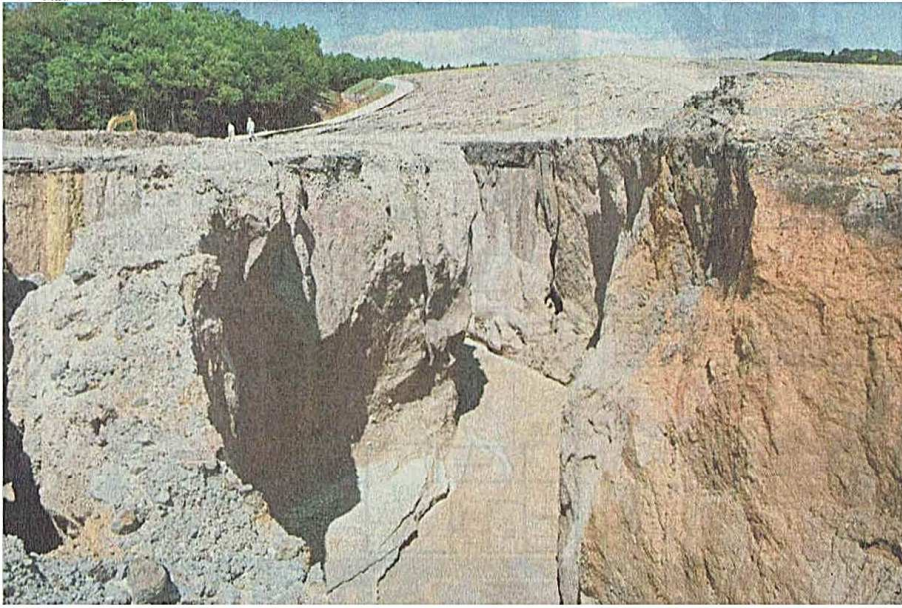


# 太陽光建設地に「崖」



大規模な浸食が確認されたメガソーラーの建設現場  
=11日、霧島市霧島永水

## 霧島・永水

# 雨で浸食、土砂流出

## 農業被害 住民懸念

霧島市霧島永水で進められている大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設現場で、雨による土砂流出が発生、深さ5メートルを超える

大規模浸食が確認された。建設業者は工事を一時中断。泥水があふれ田んぼに水張りができないうちも続く。事態を重くみた住民ら12人を募らせている。

人は20日、指導監督強化などを求める要望書を前田終止市長に提出した。梅雨入りすればさらなる浸食の恐れもあり、住民たちは不安を募らせている。

「田植えができなければ死活問題だ」。14日夜、永水地区公民館であった住民説明会。メガソーラーの施工業者・東京エネシス（東京）に対し、地区住民たちから厳しい批判の声が相次いだ。

同市霧島では10日、激しい雨が降り、県の雨量計で午前0時から24時間雨量は133.3ミリを観測した。翌朝、住民が建設現場に駆け付けたところ、雨水が土壌を削り取る「ガリ」による「浸食」によりシラス土壌が大きくくえぐら

れ、グラウンドキヤニオンが出現。河川への流量を調整する四つの防災調整池のうち二つが満杯状態で機能不全に陥った。

さらに、近くを流れる手籠川には、泥水が流入。12坪の田んぼを所有する池田昌光さん（61）は「田植えの準備に深刻な打撃。梅雨に入り雨量が増せば再び大量の土砂が流れる恐れがある」と憤りを隠さない。

現場は鎌田建設（霧島市）の関連会社が所有。かつてゴルフ場や養豚場の計画が浮上したが、中止や白紙となり、東京エネシスが土地を借りて発電事業に乗り出すことになった。約145万平方メートルの敷地に、13万7千枚のパネルを敷く計画で、昨年5月に着工したが、今回の浸食で建設工事は一時ストップ。調整池に堆積した土砂を撤去し、土砂を沈めるための沈砂池を増設することにした。

同社広報室の松本繁徳室長は「もともと建設現場に亀裂はあったが、あれだけ大きい浸食はなかった」と説明。「土砂流出を防止する対策を徹底した上で工事を再開したい」とし、理解を求める。

林地開発許可を出している県森づくり推進課は12日に現地調査し、土砂流出の原因究明などを進めるよう指導した。調整池には流木や石などが詰まり、雨水が流れなくなっている施設もあるという。

だが、今回はこの基準を下回る雨量で大規模浸食が発生したことになる。農家で組織する永水地区6水利組合代表の園田義昭さん（73）は「さらに雨量が増えれば、下流域の国分平野でも被害が出かねない」と指摘。永水地区自治公民館長の松元輝美さん（70）も「調整池が機能しなければ、稲作だけでなく、人や家への被害も起きかねない」と心配そうに話す。（山下翔吾）

同社広報室の松本繁徳室長は「もともと建設現場に亀裂はあったが、あれだけ大きい浸食はなかった」と説明。「土砂流出を防止する対策を徹底した上で工事を再開したい」とし、理解を求める。

林地開発許可を出している県森づくり推進課は12日に現地調査し、土砂流出の原因究明などを進めるよう指導した。調整池には流木や石などが詰まり、雨水が流れなくなっている施設もあるという。

同市霧島では10日、激しい雨が降り、県の雨量計で午前0時から24時間雨量は133.3ミリを観測した。翌朝、住民が建設現場に駆け付けたところ、雨水が土壌を削り取る「ガリ」による「浸食」によりシラス土壌が大きくくえぐら

現場は鎌田建設（霧島市）の関連会社が所有。かつてゴルフ場や養豚場の計画が浮上したが、中止や白紙となり、東京エネシスが土地を借りて発電事業に乗り出すことになった。約145万平方メートルの敷地に、13万7千枚のパネルを敷く計画で、昨年5月に着工したが、今回の浸食で建設工事は一時ストップ。調整池に堆積した土砂を撤去し、土砂を沈めるための沈砂池を増設することにした。

同社広報室の松本繁徳室長は「もともと建設現場に亀裂はあったが、あれだけ大きい浸食はなかった」と説明。「土砂流出を防止する対策を徹底した上で工事を再開したい」とし、理解を求める。

林地開発許可を出している県森づくり推進課は12日に現地調査し、土砂流出の原因究明などを進めるよう指導した。調整池には流木や石などが詰まり、雨水が流れなくなっている施設もあるという。